

## 2020年度 自己点検・自己評価

学校法人文化学園 文化外国語専門学校

校長 古屋和雄

[評価] 5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

| 1 | 教育理念・目標等                  | 評価 |
|---|---------------------------|----|
| 1 | 1-1 教育理念は定められているか         | 5  |
| 2 | 1-2 教育目標は定められているか         | 5  |
| 3 | 1-3 学校の特色は何か              | 5  |
| 4 | 1-4 教育理念・目標に基づく教育が行われているか | 5  |

《現状・具体的な取り組み／課題》

## &lt;教育理念&gt;

国境を超えて理解し合うためのコミュニケーション力を、日本語を通じて養う。

## &lt;教育目標&gt;

〔日本語科〕

〔本年度の課題〕

コミュニケーションのために必要な「書く力」「話す力」というプロダクション能力だけでなく、その基礎となる「聞く力」「読む力」を伸ばし、総合的な日本語力の向上が図れるように継続的にカリキュラムを見直していく。とりわけ中級レベルのカリキュラムの検討が急がれる。

〔取組の結果と点検・評価〕

本年度は年間を通じて昨年度とは全く異なる運営となった。オンライン授業が多い中、コミュニケーション力を伸ばす指導に困難を感じた教員も多かった。授業内でのコミュニケーションを進めるための工夫や、練習量を増やすための工夫が必要である。

〔次年度への課題〕

引き続き対面授業とオンライン授業を併用しながらの授業運営となる。学生の日本語コミュニケーションの機会を増やし、ともに学んでいく環境づくりを心がける。対面授業、オンライン授業それぞれの特徴を生かした指導を心がけたい。

〔日本語教師養成科〕

〔本年度の課題〕

「実践的な指導能力を持つ日本語教師の育成」という教育目標の実現に少しでも近づくように、体験を重視した教育を目指す。そのために必要な知識の獲得や日本語力の向上を図る。

〔取組の結果と点検・評価〕

今年度は、コロナ禍の中、第1回の教壇実習がオンライン実習、第2回が対面実習となった。オンラインによる授業実践を体験する貴重な機会となった。対面、オンライン、どちらでも授業ができるように指導内容を検討した。

〔次年度への課題〕

社会の状況を見ながら、オンライン授業実習をどのような形にしていくかを引き続き考えていく必要がある。また、対面授業における教育能力、指導能力の向上を目指すためにも十分な時間と機会を確保する。オンライン、対面双方の授業の経験を積むことで、これからの日本語教育に適応できる能力を養う。

[日本語通訳ビジネス科]

[本年度の課題]

ビジネス現場で通用できる高いレベルの日本語能力と英語（もしくは中国語）能力を備えるため、本科のカリキュラムは通訳翻訳科目・日本語科目・ビジネス科目で有機的に構成されている。

その中で、日本語能力の向上と通訳翻訳訓練の一環として行っている日本語劇は年々規模も大きくなり、教育効果も確認されている。しかし、練習に対し消極的な態度を示す学生や通訳実習などを希望する学生の声もあるため、学生に対する説明や学生への意識づけ、進め方を丁寧に検討する必要がある。常勤だけではなく非常勤の先生方にも日本語劇の意義を理解してもらいながら、全体でサポートしていく。

[取組の結果と点検・評価]

コロナ禍の影響を受け、年度当初からオンライン授業（遠隔授業）への対応を余儀なくされた。後にオンライン授業と対面授業との組み合わせ形式になったものの、一時的には全面オンライン授業へ戻るなど、感染状況や政府の方針などに沿いながら紆余曲折があった。予定されていた授業に加え、課外の実習などにも大きな影響が出たが、その都度代替案を考えながら既存のカリキュラムや履修内容が適切に移行できるよう気を配った。

[次年度への課題]

次年度もコロナ禍の影響はある程度続くものと予想されるため、今年度の実績を踏まえ、オンライン授業や対面授業とオンライン授業の組み合わせ形式の授業において、より細かい対応を行う必要がある。また母国を離れて留学している学生の特殊な生活環境に鑑み、学習面のみならず生活面や心身面においても必要と思われるサポートを行っていく必要がある。

## <学校の特徴は何か>

学校法人文化学園の設置する専門学校の日本語教育機関として、文化学園大学・文化ファッション大学院大学・文化服装学院への進学を希望する外国人留学生の日本語教育を実施している。また、文部科学省より国費留学生日本語教育委託校に指定されており、行政からも信頼を受けている。外国人留学生の学生会館も整備され、安心して学生生活を送ることができる。

## <教育理念・目標に基づく教育が行われているか>

[日本語科]

[本年度の課題]

初級と上級の間をつなぐ中級レベルの日本語力について多角的に検討し、中級レベルで求められる技能について、改めて体系的に見直していく。

[取組の結果と点検・評価]

今年度は中級レベルの技能について体系的な見直しは行うことができなかった。しかし、例年のカリキュラムとは異なった運営になったため、各レベルで到達目標を検討し直し、新しい試みを行ったり、

教材を作成したりした。

[次年度への課題]

海外在住の学生の来日の状況を見ながらカリキュラムを検討し、卒業までの目標を明確にして指導していくことが課題である。

[日本語教師養成科]

[本年度の課題]

文化審議会国語分科会の「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」の「日本語教師【養成】における教育内容」を踏まえ、日本人と外国人がともに学ぶコースとしての特色を生かしたコース運営に注力する。

[取組の結果と点検・評価]

本年度は日本人学生がいなかったため、外国人学生のためのコース運営となった。非漢字圏の学生が十分に力を発揮できるよう、教材や試験の内容を検討した。

[次年度への課題]

引き続き、日本人と外国人がともに学ぶコースとしての在り方を探っていく。また、外国人学生同士もお互いの文化や言語、その他の背景を尊重しつつ、ともに同じ目標に向かって努力できるような雰囲気づくり、環境づくりに努力する。また、外国人学生に対しては「日本語を正しく理解し、使える能力を養う」ことを教育目標の一つにしているが、日本語科目である「日本語演習」の目標を検討し直し、カリキュラム・教材を整備する。

[日本語通訳ビジネス科]

[本年度の課題]

通訳翻訳、ビジネス、上級日本語という三本柱による教学内容が他校との差別化に繋がっている点を重視し、さらなる整備と改善を行う。通訳翻訳科目における一年次対象の『通訳翻訳概論』については、一定の教育的効果を上げた反面、やや専門的に過ぎる内容も含まれており、かつその量も多かった反省から、今年度は若干の調整を行うことにする。

またビジネス科目や日本語科目では、引き続き大量のアウトプット、特にパブリックスピーキングに重きを置き、より実践的な活動ができるようにしていく。就職に有利になるよう、スキル強化や資格取得に役に立つ科目の配置など、体系的なカリキュラムの調整を行う。

[取組の結果と点検・評価]

コロナ禍の影響を受けたオンライン授業やオンライン授業と対面授業の組み合わせ形式の授業に対応するため、動画配信による授業やオンライン会議システムを使ったリアルタイムの授業などさまざまな試行と実践を行った。遠隔環境においても従来通りの細かな指導が行えるよう、LMS (Learning Management System/学習管理システム) も活用して学生とのやりとりに遺漏がないよう配慮した。

[次年度への課題]

次年度もコロナ禍という特殊な状況に合わせた、これまでにない形の教育形態を模索する時期が続くと思われる。本来の教育理念に沿った実践が行えるよう、常勤・非常勤の講師と学校の教務間の連携を深め、より効果的な教育方法を模索したい。そうした教育形態を可能ならしめる設備の充実（通信環境・設備など）も求めている。

| 2 学校運営 |   | 評価 |
|--------|---|----|
| 5      | <u>2-1 運営方針は定められているか</u>  | 5  |
| 6      | <u>2-2 事業計画は定められているか</u>  | 5  |
| 7      | <u>2-3 運営組織や意志決定機能は確立され、効率的なものになっているか</u>                         | 4  |
| 8      | <u>2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか</u>                       | 4  |
| 9      | <u>2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか</u>                              | 4  |
| 10     | <u>2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか</u>                        | 4  |
| 11     | <u>2-7 危機管理体制は整備されているか</u>  | 5  |
| 12     | <u>2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう<br/>学校教育法に基づき整備されているか</u> | 5  |

《現状・具体的な取り組み／課題》

[本年度の課題]

- ・関連省庁からの情報・指示のもと、オール文化で新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を練り、環境を整えたうえで学生を招く。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、学生数の減少が予測された。また、遅着者の数も多くなり、これまでにはない指導の在り方が問われている。健康に留意しながら、学習効果も維持できるよう様々な工夫が求められる。
- ・新しい学籍管理システムを有効活用できるようにする必要がある。

[取組の結果と点検・評価]

- ・関連省庁からの指示、指導をもとに学園本部と連携して新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行った。具体的には、オンライン授業を中心に登校日も設定して運営した。登校日は感染状況に応じて、週1日から週3日、あるいは、登校する週としない週を設定するなど工夫した。学生、教職員のマスクの着用、正門の検温器や消毒用のアルコールの設置、教室での距離を保てるように配慮した座席、専用機器も活用した換気、授業後の除菌用シートによる机やいすのふき取りなど、登校時も十分に対策を行った。学外でも、三密を避ける、手洗いの励行などの基本的な感染防止対策に加え、感染リスクの高い5つの場面の回避などを教師からは授業で、職員からは翻訳付きのメールで指導した。
- ・新規入国者については、レジデンストラックにしたがって2週間の自宅待機、健康観察を適切に行った。
- ・7月末に2名の学生が新型コロナウイルス感染症に感染したが、保健所の指示に従って適切に対応し、2名とも無事に回復し、学習への影響も最小限にとどめることができた。それ以降は学生も教職員も感染者を出さずに卒業を迎えることができた。
- ・学生数は、入国制限のために入国できない、あるいは新型コロナウイルス感染症への感染を避けるため、などの理由で取り消しや延期が相次ぎ、予定の約3分の2にとどまった。
- ・今年度から導入した学籍管理システムについては、大きいトラブルは起きなかった。来年度はさらなる有効活用につなげたい。
- ・3月に第三者機関である日本語教育振興協会の教育活動評価を受けた。

[次年度への課題]

- ・来年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底したうえで、安全に教育活動を行っていききたい。

- ・関連省庁の指導にしたがって適切に新規入国者を受け入れたい。
- ・日本語科については、4月のコース開始時にほとんどの留学生が入国できていないと思われるが、そのような学生についてもオンライン授業を駆使して対応していきたい。日本語教師養成科と日本語通訳ビジネス科の学生は、海外にいる学生が少数派であるが、できる限り入国を待って、本校の学生として迎えることができるよう最善を尽くす。
- ・国内にいる在校生と国外にいる学生のどちらにも質の伴う教育が施せるよう教職員一丸となって取り組む。
- ・オンライン授業と対面授業を適切に組み合わせて、教育効果の低下を最低限にするよう努力する。
- ・日本語教育振興協会の教育活動評価の結果に従い、改善に努めたい。

| 3 教職員 |                                | 評価 |
|-------|--------------------------------|----|
| 1 3   | 3-1 教育理念・目標が教職員間で共有されているか      | 4  |
| 1 4   | 3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか | 4  |
| 1 5   | 3-3 教職員評価を行っているか               | 4  |

《現状・具体的な取り組み／課題》

#### <教育理念・目標が教職員間で共有されているか>

[本年度の課題]

- ・各科とも、文化学園の100周年に向けて教育理念に沿った具体的な取り組みを考え、実行し始める必要がある。
- ・非常勤の教員、新任の教員としっかり連携をとり、教育理念や目標を共有できるようにしなくてはならない。

[取組の結果と点検・評価]

- ・新型コロナウイルス感染症対策を第一としたため、100周年に向けての取り組みはあまり進めることができなかった。
- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止に対応しつつ、教育目標に到達できるように取り組んできた。当初不安であったオンライン授業も途中から軌道に乗り、一定の成果を得た。学生からの評価にはばらつきがあったが、対面との組み合わせによって、大きい不満にはつながらなかった。
- ・年度末には、オンライン授業の進め方に焦点を絞って研修会を行った。各科の取組を報告しながら、その長短所を共有し、来年度の教育にどう生かすか検討した。ここでは、教員が学校の教育理念や到達目標を改めて考える機会にもなり、大変有意義だった。

[次年度への課題]

- ・各科とも、文化学園の100周年に向けて教育理念に沿った具体的な取り組みを考え、実行し始める必要がある。
- ・年度末の研修会を踏まえ、オンライン授業と対面授業の組み合わせた運営の中でも、教職員が教育理念や目標を理解して実践できるよう、工夫する必要がある。

#### <教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか>

[日本語科]

[本年度の課題]

専任教員、非常勤教員がともに教育の質の向上を目指せるように一層の協力体制を作る必要がある。

[取組の結果と点検・評価]

学校内ではオンライン授業を実施するための技術的な問題解決や向上のために、教員がグループを作って検証し、マニュアルを作ったり、教員間で共有したりした。また、学校外で行われている様々な研修に参加した。

[次年度への課題]

引き続き専任教員と非常勤教員の情報や技術の共有を進め、授業運営を円滑化し、学生がより良い教育を受けることができるように努めていく。とりわけ今年度実施した様々な試みの成果をよりわかりやすい形で整えること、オンライン授業のためのツールのマニュアルを整備し、それを教員間できちんと共有すること、学生が様々なアプリケーションやツールを使いこなせるように指導できる教材類を整備することなどが課題となる。

[日本語教師養成科]

[本年度の課題]

次年度以降も専任教員、非常勤教員とも日本語科の授業や教育運営にも携わっていくことになるため、ミーティングや作業のために確保できる時間を有効に使い、教材改訂、授業の質の向上のための取り組みを行っていく。

[取組の結果と点検・評価]

在宅での授業準備、実施、教材作成などが増えたため、教員相互の連絡を今まで以上に密に取ってきた。ドキュメントの共有や、オンライン会議などのツールを利用して、授業の引き継ぎや情報共有を行った。学生への課題提示、提出なども **google classroom** や共有ドライブなどを積極的に活用した。

[次年度への課題]

今年度行った様々な取り組みを整理し、さらに有効活用できるように整える。授業の引き継ぎが教員の負担になりすぎないように、効率的に行う方法を模索する。

[日本語通訳ビジネス科]

[本年度の課題]

パソコン教室の使用状況が **Wi-Fi** 設備の充実によってよりフレキシブルになるため、授業や訓練への積極的な活用を進めていきたい。また学生数が増加していることに鑑み、個々の習熟度に合わせた細やかな指導を心がけて行く必要がある。本学科は「日本語・通訳翻訳・ビジネス」という三つの教育内容が盛り込まれており、その内容は多岐にわたる。それぞれが有機的に関連しながら学科全体としての教育の質を上げるため、それぞれの担当教員間での知識や問題意識の共有にはこれまで以上に留意していかなければならない。

[取組の結果と点検・評価]

コロナ禍という特殊な状況において、一部に学生とのコミュニケーションが不足する懸念が見られた。このために **LMS** を活用した相互のやりとりに加えて、オンライン授業と対面授業を組み合わせた形式の授業を行う際の登校日を利用してのきめ細かい対応に腐心した。特殊な環境下でも教育の質を低下させないため、教員間のコミュニケーションに関しても特に気を配った。

[次年度への課題]

今年度は急遽コロナ禍に対応したため、特にオンライン授業時に使用する教材や資料の作成には手間

がかかり、時間にも追われた。次年度は今年度の経験や教訓を踏まえ、特殊な状況にも対応できるようカリキュラムや教材・資料を前広に準備し、教育の質が低下しないよう留意すべきだと考える。

### <教職員評価を行っているか>

[本年度の課題]

一般事務職員の面談を改善にどう役立てていくか工夫する必要がある。

教職員、学校に対する学生の声を教育活動や学校運営にどう生かすか、引き続き様々な試みを行っていく必要がある。

[取組の結果と点検・評価]

- ・一般事務職員の人事考課については、従来の方法にそって行ったが、面談の時期が一度目の緊急事態宣言期間と重なり、学園の方針で面談を実施は見送られた。
- ・教員については、出退勤の時間管理が開始されたが、勤務内容を誰がどう評価するかは今後の課題として残っている。一方、新型コロナウイルス感染症の影響で時差通勤と在宅勤務が積極的に行われるようになり、現在は多様な勤務の在り方が認められるようになっている。

[次年度への課題]

- ・一般事務職員の面談を改善にどう役立てていくか工夫する必要がある。
- ・学園全体での取り組みと連動させて、教員評価の仕組みづくりを進めていく必要がある。

| 4  | 教育活動                                    | 評価 |
|----|---|----|
| 16 | 4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか                 | 5  |
| 17 | 4-2 授業評価の実施・評価体制はあるか                    | 4  |
| 18 | 4-3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか | 5  |
| 19 | 4-4 成績評価は適切に行われているか                     | 4  |
| 20 | 4-5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか        | 5  |

《現状・具体的な取り組み／課題》

### <カリキュラムは体系的に編成されているか>

[日本語科]

[本年度の課題]

カリキュラムの体系化は初級、上級ではかなり改善されている。中級レベルについては、指導内容の重なりや、スキルが明確にされていない点などが課題として挙がっているため、改善が必要である。

[取組の結果と点検・評価]

今年度は中級のカリキュラムは着手することができなかった。オンライン授業の導入により、対面授業とオンライン授業の特徴を生かした授業をどのようにカリキュラムに反映させるかが課題となった。

[次年度への課題]

引き続き、オンライン授業、対面授業の利点を生かした授業を各レベルで試みていく。また、レベルによって異なる問題点をどのように解決できるかを検討し、カリキュラムに反映させていく。4技能や表記についても、オンラインで指導できること、対面授業で指導できることをしっかり整理し、状況によって変化する授業形態に対応できるような柔軟な体制を保ちつつ、体系的なカリキュラム整備

を心がける。

[日本語教師養成科]

[本年度の課題]

文法、実習、評価以外の科目でも、教員側から積極的に教科間の関連性を学生に明示して取り組んでいく。

[取組の結果と点検・評価]

オンライン授業のため、学生にとっては各教科の関連性を感じる事が難しい点もあったかもしれない。クラスルームや共有ドライブの積極的な利用により、教材などが参照しやすくなったことは、評価できる。また、実習時期や登校日の関係で、今までとは違った時期に実施したり、違った形になったりした科目や項目もある。今年度の運営全体を俯瞰して評価する必要があるだろう。

カリキュラムに関しては、外国人学生の日本語力の向上を目指す「日本語演習」の内容を見直した。

[次年度への課題]

第1回実習をどのような形、時期に行うかで、教育学全体の流れが決まるため、来年度も柔軟な対応を考える。第1回の実習は本校日本語科の当該レベルの学生をモデル学生としているため、日本語科の学生の入国状況、学習状況などをみながらの対応となる。「日本語演習」の技能的な目標を考え直し、目標に沿った指導ができるよう体系的に見直していく。

[日本語通訳ビジネス科]

[本年度の課題]

引き続き日本語学校等での学習の延長として「上級日本語」の涵養を柱に据えた教育を行っていく。通訳翻訳訓練を応用した日本語教育というベースは変わらないが、生徒からの要望やフィードバックなども参考に、ビジネス科目等との有機的な連携を深めながらより充実したカリキュラムを構成していく必要がある。また座学と実習のバランスや、日本語劇などの特別科目についても若干の調整を行い、それぞれの留学生が自身の目標に向かってより効果的な学習を行うことができるよう配慮することが求められている。

[取組の結果と点検・評価]

今年度は時間と空間が制約された状況で教育の質を落とさないためにどのようにするかを模索しながら運営していく年だった。結論としては、突然のスケジュール変更や行事の縮小などはあったものの、本科の基本である「通訳翻訳」「上級日本語」「ビジネス日本語」の3本柱を中心とした教科課程をほぼ例年通り運営することができた。

字幕制作や通訳実習などの実技科目に関しては対面授業ができなかったため前期の過程を後期に回して三密対策をしっかりとりながら対面授業にすることで、例年のような学習ができるように調整した。

以上のように迅速かつ柔軟な対応を取ることで、例年のような体系的なカリキュラム運営ができた。

[次年度への課題]

コロナウイルスによる影響は次年度にもしばらく及ぶと予想されるため、これを見据えたカリキュラム運営が必要となる。日本人とは違って、言語や生活環境（ICT環境も含め）に制約のある留学生には遠隔授業は負担が大きい。彼らが目標としている日本語能力習得やスキルをしっかりと学べるようにきめ細やかなサポートをしていくと共に、カリキュラム自体もポストコロナ社会の変化にしっかり対



応できるように実践的内容を盛り込んでいきたい。

### <授業評価の実施・評価体制はあるか>

[日本語科]

[本年度の課題]

より良い授業実践のために役立つ、効果的な授業評価の方法を模索する。

[取組の結果と点検・評価]

Google forms による授業評価を取り入れている。今年度はオンライン授業のやり方についても学生からのコース評価の中に取り入れた。また、例年、年度末には担当教員が年間を通しての授業の振り返りを行っている。各担任が行っている面談などを利用して授業に対する要望を聞き取り、改善している。

[次年度への課題]

2020 年度のコース評価で明らかになった課題を先延ばしにせず、一つ一つの問題が解決できるような体制づくりが必要である。とくに学生同士、学生と教員間のコミュニケーションを円滑にできるように力を尽くす。

[日本語教師養成科]

[本年度の課題]

より良い授業実践のために役立つ、効果的な授業評価の方法を模索する。

[取組の結果と点検・評価]

Google forms による授業評価を取り入れている。今年度はオンライン授業のやり方についても学生からのコース評価の中に取り入れている。また、例年、年度末には担当教員が年間を通しての授業の振り返りを行っている。面談や様々な機会に学生からの要望を聞き取り、授業運営に反映させている。

[次年度への課題]

一人ひとりの学生の声、教員の振り返りを大切にして、取り組んでいく。学生による授業評価は質問項目を見直し、より、効果的な授業評価ができるように努力する。

[日本語通訳ビジネス科]

[本年度の課題]

学生からの要望や授業評価の結果を全教員で共有し密に話し合うことで、授業における課題や改善点を模索していく。また、教員同士、責任者の授業見学を活発に行うことで、学生からの評価だけではなく、教員目線からの評価を入れることで、授業の改善につなげる。

[取組の結果と点検・評価]

教員同士の授業に対する意見交換は大変活発に行われたが、対面授業が少なかったため授業見学はあまり実施できなかった。

授業評価に関しては、科目によって Google Classroom の Form を利用し、学生にアンケートを実施した。アンケートを実施しない教科は学生個人と面談し、意見や要望などを聞き取った。本科で共有すべき要望は教師間で共有し、改善および次年度に活かしていく。

[次年度への課題]

遠隔授業が多くなると学生の意見が見えにくくなる部分がある。次年度も学生一人一人の声を大切に

していく。また、教員同士の意見交換、授業見学を活発に行っていく。

### <目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか>

#### [本年度の課題]

引き続き、適切なタイミングでの教員募集ができるように配慮し、新任の教師に対する研修もしっかり行う。

#### [取組の結果と点検・評価]

日本語科については教員募集を行い、来年度から新しい教員を2名迎えることになった。オンライン授業の質を向上するために、年度末に学内研修会を実施した。

#### [次年度への課題]

新任教員を適切に研修していくことができるよう万全を期す。

### <成績評価は適切に行われているか>

#### [日本語科]

#### [本年度の課題]

指導内容が正しく反映される評価方法を取っているかを常に心がける必要がある。

#### [取組の結果と点検・評価]

今年度は成績評価を出すアチーブメントテストについては、ほぼ例年と同様の形で行った。オンラインによる成績評価は難しいだろうと判断した。

#### [次年度への課題]

オンラインと対面という二つの形態で指導した結果、到達目標が達成できたかどうか評価できる方法を今後も考えていく。

#### [日本語教師養成科]

#### [本年度の課題]

常に授業や単元の目標を確認しつつ、その達成度を測るのに適切な評価基準かどうかを確認しながら取り組んでいく。

#### [取組の結果と点検・評価]

筆記試験についてはその都度、問題を再検討した。また、課題提出や実習については、担当教員が複数で評価したり、評価基準を検討したりした。

#### [次年度への課題]

継続して評価の妥当性について検討していく。

#### [日本語通訳ビジネス科]

#### [本年度の課題]

科目によっては結果だけではなく、プロセスが大事な場合がある。課題提出や課題の完成度に対する評価基準をさらに明確に示していく。

#### [取組の結果と点検・評価]

今年度は例年通りの筆記試験を行うことが難しい時期もあった。担当教員と責任者の間で、試験の内容、やり方、評価基準などを綿密に検討し、試験を行った。

遠隔授業で課題の比重が多くなっているため、課題の完成度・締め切りなどに対する細かい指導を学生に行い、評価につなげた。

[次年度への課題]

遠隔で試験を行う場合や課題の比重が大きい科目は課題の評価基準を具体的に学生に提示しておく必要がある。引き続き、担当教科と責任者で科目の到達目標・評価基準に関して検討する。

#### <各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか>

[日本語科]

[本年度の課題]

現段階では日本語科の学習者の中では日本語能力試験以外のニーズはあまり高くないと思われる。次年度以降も総合的な日本語力の伸長を図りつつ、日本語能力試験の合格を目指す。

[取組の結果と点検・評価]

今年度は到達目標の変更、オンライン授業での対策授業実施など、制約の多い中での指導となった。試験合格のためには、試験対策授業だけでなく基礎的な日本語力の向上を目指す必要がある。

[次年度への課題]

引き続き総合的な日本語力の伸長を図りつつ、それぞれの日本語力に応じたレベルの日本語能力試験の合格を目指す。

[日本語教師養成科]

[本年度の課題]

より多くの学生が合格を目指せるように、引き続き対策授業の在り方を見直していく。

[取組の結果と点検・評価]

例年対面で実施していた授業を、オンラインで効率よく指導するよう尽力した。

[次年度への課題]

全養協日本語教師検定試験は、本校のカリキュラムで学んだこと十分に身に付けていれば合格を目指す。外国人学生の場合日本語力の差も合格率に大きい影響があるため、引き続き日本語力を伸ばす指導にも注力する。

[日本語通訳ビジネス科]

[本年度の課題]

引き続き、日本語能力試験 N1 合格者の次のステップとして、語彙ブラッシュアップ、日本語検定対策の授業を設定する。また、就職に有利となる TOIEC 対策科目も年間を通して実施する。

[取組の結果と点検・評価]

各種日本語試験の対策科目は対面ではなくほとんど遠隔授業で行った。例年より課題が多かったにもかかわらず、脱落者が少なかったのは、きめ細かな FB があったからであろう。学生から自分のペースで勉強ができたとの声もあり、遠隔授業の良さもあった。

[次年度への課題]

引き続き、BJT、日本語能力試験、日本語検定試験など対策科目を指導していく。遠隔授業での指導も多くなると予想されるが、認定率向上に向け細心な指導と学生個人々々に対する FB を行う。

| 5 学生支援 |  | 評価 |
|--------|--|----|
| 2 1    | 5-1 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか          | 5  |
| 2 2    | 5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか             | 5  |
| 2 3    | 5-3 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり有効に機能しているか | 5  |
| 2 4    | 5-4 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか               | 5  |
| 2 5    | 5-5 保護者と適切に連携しているか                         | 4  |
| 2 6    | 5-6 卒業生への支援体制はあるか                          | 5  |

《現状・具体的な取り組み／課題》

<進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか>

●進学

[本年度の課題]

来年度はどのような状況になるか予測ができないが、引き続き学生の希望に沿った丁寧な指導ができるよう、入試情報の収集と共に、論文指導や面接指導も強化していく必要があるだろう。

[取組の結果と点検・評価]

対面授業の機会が極端に減ったため、今年度はオンライン(google forms)による進路調査を行った。また、内部進学者に対するオンライン説明会なども行い、コロナ禍においても学生の希望に沿った指導ができたのではないと思われる。

[次年度への課題]

今年度は入国時期が学生によって異なり、入国と出願の時期が重なるなど、例年にはない難しさがあつたが、オンラインを積極的に活用するなど、新たな進路指導の方法を取り入れることもできた。次年度は今年度の事例を生かし、さらに状況にあつた進路指導を目指したい。

●就職指導

[本年度の課題]

引き続き、専門性のある外部ソースを活用した就職支援（エントリーシートの添削や面接練習など）を行う。学生にとって有益な企業や外部とのつながりをどのように広げていくかを検討する。就職に関する情報は掲示板の活用やメールでのやり取りを通し、積極的に行っていく。

[取組の結果と点検・評価]

コロナ禍での就職説明会・面接などはオンラインで行われることが多く、対面より学生の参加率が高くなった。就職担当教員のほうから積極的に情報をメールで流し、参加を促した。

また、外部ソースを活用した就職支援（ES作成、模擬面接）もオンラインを利用して開催するなど、新たな就職指導の方法を取り入れることができた。

また、進学を希望する学生は担任がしっかり対応したため、進学を希望したほとんどの学生が合格できた。

[次年度への課題]

就職活動のオンライン化を踏まえ、就職支援もそれに合わせた支援を検討していく。また、オンライン説明会やメールなどを積極的に利用し、対面のみに頼らない指導をしていく。

また、教職員だけではなく、専門性のある外部ソースを活用した就職支援も引き続き行う。

<項目「5-2～5-6」>

[本年度の課題]

- ・当初3月に専任教師全員を対象として特徴を持った学生への対応の勉強会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐ目的で開催を延期した。来年度の夏、改めて開催する。
- ・引き続き、医務室、学生相談室、寮、海外事務所、業務提携をしている海外の業者と適切な連携をとって学生の学習がより進むように配慮したい。

[取組の結果と点検・評価]

- ・特徴を持った学生への対応の勉強会は実施できなかった。
- ・コース開始当初、新型コロナウイルス感染症の影響で授業スケジュールが大きく変更され、オンライン授業を取り入れることになった。それに関する質問や要望にできる限り対応し、学生の不安や不満を軽減できた。
- ・従来と違うオンライン授業が取り入れられたこともあり、医務室、学生相談室、寮、海外事務所、業務提携をしている海外の業者と例年以上に多くのやり取りを重ね、学生の学びを支援した。
- ・指定伝染病が疑われる学生がいたが、診察の結果そうではないことが判明した。医務室を中心に適切に対応し、学生の健康を守ることができた。

[次年度への課題]

- ・実施できなかった特徴を持った学生への対応の勉強会を来年度はぜひ開催したい。
- ・引き続き、医務室、学生相談室、寮、海外事務所、業務提携をしている海外の業者と適切な連携をとって学生の学習がより進むよう努力したい。

| 6 在留管理と生活指導 |                                 | 評価 |
|-------------|---------------------------------|----|
| 27          | 6-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか | 5  |
| 28          | 6-2 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか   | 4  |
| 29          | 6-3 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか       | 5  |
| 30          | 6-4 常に最新の学生情報を把握しているか           | 5  |

《現状・具体的な取り組み／課題》

[本年度の課題]

- ・件数は多くないが、ドロップアウトしてしまう学生が存在する。そのような学生への対応について、本人とコミュニケーション可能な時期の早期的な対応に努める。
- ・日本社会を理解するための支援について、国民年金機構の説明会の実施にあたり、学生に理解しやすい内容の充実について検討する。

[取組の結果と点検・評価]

- ・2020年度は新型コロナウイルス感染症防止対策のためにオンライン授業を多く実施していたため、不登校という問題は挙がることは少なく、普段であれば休みがちな学生もオンラインであれば授業に参加しやすかったという状況があったのではないかと。休みがちな学生の抱えている問題は様々であるが、その理由によってはオンラインの活用は有効性があるのではないかと。一方、オンライン授業の長期化によって体調不良を訴える学生もおり、個別相談を行った。
- ・国民年金機構の説明会については、今年度は実施することができなかった。機構が作成しているDVD等があるが日本語のみのため、留学生には難しいと判断し、より効果的な方法で実施できる機会をうかがっていた。今後も年金の留学生への効果的な周知について、機構と相談していきたい。

[次年度への課題]

- ・今後もしばらくは新型コロナウイルス感染症対策の下で、平常時とは異なる入国・在留関係の管理・指導と支援が求められる。感染症対策は各国の状況によって差異があるため、日本でのルールを入国前に理解してもらい、問題があればすぐに対応できる支援体制をとっていく。
- ・コロナ禍の状況で常に最新の学生情報を把握することは、平常時に比べて難しい場合もあるが、オンラインを利用したきめ細かいやり取りや登校日を利用した面談の充実を進めていく。

| 7 学生の募集と受け入れ |                                 | 評価 |
|--------------|---------------------------------|----|
| 3 1          | 7-1 学生の受入方針は定められているか            | 5  |
| 3 2          | 7-2 学生募集活動は、適正に行われているか          | 5  |
| 3 3          | 7-3 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 5  |
| 3 4          | 7-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか  | 5  |
| 3 5          | 7-5 適正な定員設定及び在籍者数になっているか        | 5  |

#### 《現状・具体的な取り組み／課題》

##### [本年度の課題]

- ・ホームページについて、タイ語版の翻訳作業を遂行していく。
- ・在留資格認定申請の際に必要なとされている日本語力に関して、今まで審査対象になっていなかった国からの申請者について渡日前の日本語学習についての周知方法を検討していく。
- ・インドネシアの学生募集について、JSP とも協力をしていただきながら、多方面からアプローチしていきたい。
- ・日本語教師養成科について、日本人の募集についての考察
- ・日本語教師養成科と日本語通訳ビジネス科の国内募集について、本校での入学試験実施について受験生が集まりやすい日程の調整に努める。
- ・日本語学校の学生が進学校を決める場合に、日本語学校の先生からのアドバイスという意見も多いことから、西日本の日本語学校について、次年度は教員向けの相談会への参加を検討する。

##### [取組の結果と点検・評価]

- ・ホームページについて、学校および学科説明等、メインのページについてタイ語版の翻訳作業を行うことができた。
- ・渡日前の日本語学習について、学校案内書に先輩の例等を掲載することによって、入学を考える人に周知した。
- ・インドネシアの学生募集については、JASSO 海外留学フェアが中止となる中、インドネシア窓口の担当者に協力してもらいながらオンライン説明会を8月と3月に実施することができた。まずは、現地スタッフとの情報交換を密にして、参加者のフォローアップについても引き続き行ってもらうことができた。
- ・日本語教師養成科と日本語通訳ビジネス科の国内募集について、概ね受験生が集まりやすい日程で実施することができた。また、2月の入試状況によって3月にも入試日程を追加して募集に努めた。
- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言等もあり、関西地区で実施される相談会等へ参加することができなかった。また、今年度は例年は若干はある関西地区の学生からの問い合わせもなく、コロナ禍が少なからず東京への進学に影響を及ぼしているのではないかと。

##### [次年度への課題]

- ・日本語教師養成科について、日本人の募集について考察する。
- ・日本語教師養成科と日本語通訳ビジネス科の国内募集については、例年並みであったが、来年度は受験生が減少することも考えられる。2021年度は、日本語学校の先生との情報交換の機会を増やして、募集を強化していきたい。
- ・コロナ禍が続く場合、厳しい状況にはなるであろうが、関西地区での募集活動の機会を作っていく。
- ・新規渡日で日本語科へ入学を希望する学生の日本語力については、客観的に日本語力を確認できない場合の日本語力テストの実施等、積極的に行っていく。
- ・募集活動で海外に行くことができない中、海外事務所の協力が更に重要になる。現地とのコミュニケーションを密にして、有効な募集活動を引き続き実行していく。

| 8 財務 |                              | 評価 |
|------|------------------------------|----|
| 36   | 8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4  |
| 37   | 8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 5  |
| 38   | 8-3 財務について会計監査が適正に行われているか    | 5  |
| 39   | 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか       | 5  |

《現状・具体的な取り組み／課題》

[本年度の課題]

引き続き人件費等の見直しを進め、さらに人件費率減と、学生納付金増を目標とするとともに2020年度に施行される授業料値上げにより、収支改善を図っていく。

[取組の結果と点検・評価]

2019年度は人件費率3.7%減、1億3500万円減を達成した。学生納付金は6億2000万円の収入増となった。しかし2020年度は新型コロナの影響で収入減が想定される。

[次年度への課題]

引き続き人件費等の見直しを進め、さらに人件費率減と、学生納付金の回復を目標とするとともに2020年度に施行された授業料値上げにより、収支改善を図っていく。

| 9 法令等の遵守 |                                | 評価 |
|----------|--------------------------------|----|
| 40       | 9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか  | 5  |
| 41       | 9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 5  |
| 42       | 9-3 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか     | 5  |
| 43       | 9-4 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 5  |
| 44       | 9-5 自己点検・自己評価結果を公開しているか        | 5  |

《現状・具体的な取り組み／課題》

<項目「9-1～9-3」>

[本年度の課題]

今後も情報漏えいなどに注意し、年々増加し複雑化する入国管理局や渋谷区などへの報告も遅延なく行う。

[取組の結果と点検・評価]

今年度は情報漏えいなどの事象はなく、入国管理局や渋谷区などへの報告はコロナ禍の影響はあったが不備なく行った。

[次年度への課題]

今後も情報漏えいなどに注意し、増加し複雑化する入国管理局や渋谷区などへの報告も遅延なく行う。

<項目「9-4～9-5」>

[本年度の課題]

- ・「自己点検・自己評価報告」について、引き続きホームページ上で公開していく。
- ・2019年度は隔年で実施している「学生生活調査」の年であった。本学の学生の特徴や傾向を理解して、学生から寄せられた意見や要望について真摯に耳を傾けて取り組んでいく。

[取組の結果と点検・評価]

- ・「自己点検・自己評価報告」について、予定通りにホームページ上に公開することができた。
- ・2020年度の「学生生活調査」は簡易的なものであったが、例年に比べ学校に対する要求が減少していた。オンライン授業については、教員による様々な準備や教授方法の工夫等によって、学生の満足度を維持できたのではないかと。

[次年度への課題]

- ・「自己点検・自己評価報告」について、引き続きホームページ上で公開していく。
- ・2021年度は「学生生活調査」の年である。新型コロナウイルス感染症の状況をみながら設問について等、検討しながら進めていく。

| 10 | 社会貢献                            | 評価 |
|----|---------------------------------|----|
| 45 | 10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか | 5  |
| 46 | 10-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか     | 4  |

《現状・具体的な取り組み／課題》

<項目「10-1」>

[本年度の課題]

今後も外国語保持教室と渋谷区在住外国人との日本語教室及び国際交流事業は続けていく。

[取組の結果と点検・評価]

外国語保持教室はコロナ禍でオンライン開催になり、外語の教室は使用しなかった。  
渋谷区日本語教室は6月から年115回開講し、渋谷区在住の外国人の日本語教育に貢献した。  
渋谷区国際交流事業はコロナ禍で1回中止になったが、年3回しめ飾り制作や習字大会などを行い、日本文化の紹介や外国人との交流を深めることができた。

[次年度への課題]

今後も渋谷区在住外国人との日本語教室及び国際交流事業は続けていく。  
外国語保持教室は今後団体の依頼があれば対応する。

<項目「10-2」>

[本年度の課題]

- ・学生会館での地域活動について、寮長に協力していただきながら継続していく。



- ・学内だけにはとどまらず、学外の日本人との交流やボランティア活動の機会を学生が持てるように積極的な支援をしていく。

#### [取組の結果と点検・評価]

- ・今年度はコロナ禍のため、地域活動は難しかった。また、活発に活動していた杉並寮が二週間待機専用寮として使用されることになった。今後は、今までとは違ったかたちでの地域活動への参加を考える必要がある。
- ・中学校、高校の英語ボランティアの生徒の ZOOM を用いた英語学習の相手となるボランティア学生の募集を行った。開催日が 3 月中旬のため、今年度は日本語通訳ビジネス科 1 年生に向けて案内をした。オンライン上にはなるが、このような学校の授業とは異なる日本人との交流は、自身の成長につながる貴重な経験であると思う。

#### [次年度への課題]

- ・学園内の他の学校の学生と交流ができる学生会館という場を利用して、地域社会とも学生が関わっていける取り組みを考える。
- ・学内だけではない日本人との交流やボランティア活動については、学生に情報を提供する等、引き続き積極的な支援をしていく。

## 総括

本校では、1980 年に創立して 41 年の間に 89 の国と地域から 8500 名を越える留学生が集い、学んできた。学習の目的としているのは、日本語を介したコミュニケーション能力を身につけることである。本校では私費の留学生だけでなく、国を代表し、日本の国費で学ぶ留学生も預かっており、日本文化に親しみ、祖国との架け橋になってくれる志の高い若者が多い。こうした留学生のために、安心安全な学生会館を整備し、学園の医務室や学生生活支援室と連携をとっている。

この一年は、新型コロナウイルスの影響を受け、当初はオンライン授業を中心に行ってきた。オンライン授業は、教師と学生、あるいは学生同士のコミュニケーションがとりにくいという欠点はあるが、画面を通じてそれぞれの表情を読み取れるといった利点もあった。新年度も対面授業、オンライン授業それぞれで工夫を重ね、学生の満足度を高めることを努めたい。

このように自己点検・自己評価には自信を持っているが、今後もアンケートなどで学生の声を拾い上げながら学習効果を高めていく。